

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 6 月 7 日	
所属部局・職	瀬戸臨海実験所・修士課程学生
氏名	福地 順

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	
日本, 屋久島	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
屋久島フィールド科学実習 (植物班)	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	
平成 30 年 5 月 19 日 ~ 平成 30 年 5 月 25 日 (7 日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
京都大学生態学研究センター, 工藤洋博士・香川大学教育学部, 篠原渉博士	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果: 長さ自由)	
<p>写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>屋久島において、シダ植物の配偶体の種組成が高度によって異なるのか、および新種のシダ植物がいるのかという 2 点を調査することを目的として、研究を行った。シダ植物では配偶体の大きさが小さい (約 5 mm~10 mm) ことから、配偶体の分布や形態は、これまであまり研究されてこなかった。本研究では、屋久島の 4 地点からシダ植物の孢子体と配偶体の採集を行った。形態的特徴に基づき、孢子体を同定した。53 サンプルの孢子体が得られ、35 種が見つかった。第 4 地点では最も多くの種数 (18 種) が採集されたのに対し、第 3 地点で採集された種数 (6 種) は最も少なかった。2 地点以上で採集された種数は、12 種であった。3 地点 (第 2, 第 3, 第 4 地点) で採集された種はコウヤコケシノブ <i>Hymenophyllum barbatum</i> のみであった。採集された孢子体のうち、オシダ科 <i>Dryopteridaceae</i> が最も高い割合 (27%) を占めた。合計で配偶体 185 サンプルが採集された。水で配偶体を洗浄し、DNA 解析用として、80%エタノールが入ったチューブ内に保存した。サンプリング中に、2 種のシダ (ホソバコケシノブ <i>H. polyanthos</i> とコバノカナワラビ <i>Arachniodes sporadosora</i>) で、葉上ゴケ 3 種 (ユニバヨウジョウゴケ <i>Cololejeunea spinosa</i>, ヤマトヨウジョウゴケ <i>C. japonica</i>, クサリゴケ科の 1 種 <i>Lejeuneaceae</i> sp.) が発見された。</p>	
	
図 2. 光学顕微鏡によりシダ植物の配偶体のサンプルを調べている様子。	図 1. 第 4 地点で見つかったシダ植物の孢子体。
	
	図 3. 第 2 地点で見つかった一般的なハート型のシダ植物配偶体。
6. その他 (特記事項など)	

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

--